

令和7年度 兵庫県私立幼稚園協会

(令和7年度私立幼稚園教員子育て支援研修)

カリキュラム・マネジメントについて
一子ども理解を踏まえた保育実践と評価・改善のサイクルー

瀧川 光治 (大阪総合保育大学)
k-takigawa@jonan.ac.jp

【動画から考えよう】 文部科学省Youtube動画①

■「遊びは学び 学びは遊び ”やってみたいが学びの芽”～どろだんご遊びから見える資質・能力を育むための園の工夫～」の動画を見てみよう

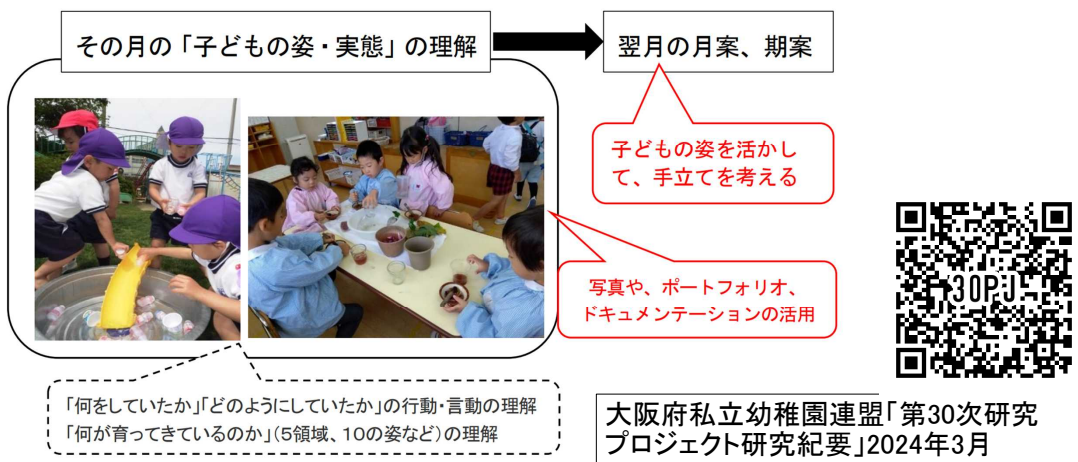
★ 保育者が何をしているかに着目して、動画を見てみましょう。

- (1) 動画の中では、保育中に保育者は何をしていましたか？
- (2) 動画の中では、保育の後で保育者は何をしていましたか？
- (3) 結果的に、動画の中の子どもたちは、どろだんご遊びの経験や、どろだんご遊びを通して何が育ってきているのでしょうか？



はじめに① みんなの園では、どうですか？

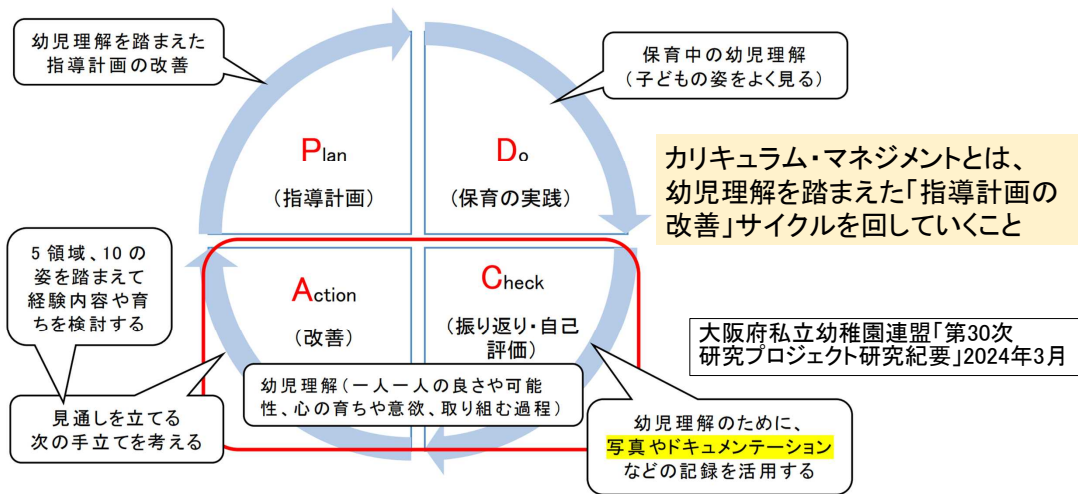
みんなの園では、下記のように「子どもの姿・実態」の理解を踏まえて、次への手立てを考えて、月案(期案)・週案等に活かしていますか？



- (1) 動画の中では、保育中に保育者は何をしていましたか？
⇒ 子どもとともに、一緒にどろだんごを作る。
子どもの目線で子どもの遊ぶ様子を見て、幼児理解をしている。
状況の応じて、意図的な言葉がけをしている。
- (2) 動画の中では、保育の後で保育者は何をしていましたか？
⇒ どろだんごをしているときの子どもの写真を使って、ドキュメンテーションを作る。他の保育者と対話して、幼児理解を深め、次の保育の準備(環境構成)を行っている。
★自分なりの考えや発想が試せる機会と繰り返す
- (3) 結果的に、動画の中の子どもたちは、どろだんご遊びの経験や、どろだんご遊びを通して何が育ってきているのでしょうか？
⇒ 10の姿(思考力の芽生え、言葉による伝え合い、自立心など)
その過程で、いろいろな気づき・発見があり、色々なことを試したり、工夫したり、考えたりしながら、自分なりのどろだんごを何個も作っている。
★自分なりの考えや発想が試せる機会と繰り返しのための時間が必要！

はじめに② ー 幼児理解を踏まえた指導計画の改善サイクル

みなさんの園では、下記のように「PDCAサイクル」(幼児理解を踏まえた指導計画の改善サイクル)が回っていますか？ とくに「C」「A」はどうですか？



1. 「カリキュラムマネジメント」とは？ー幼稚園教育要領より

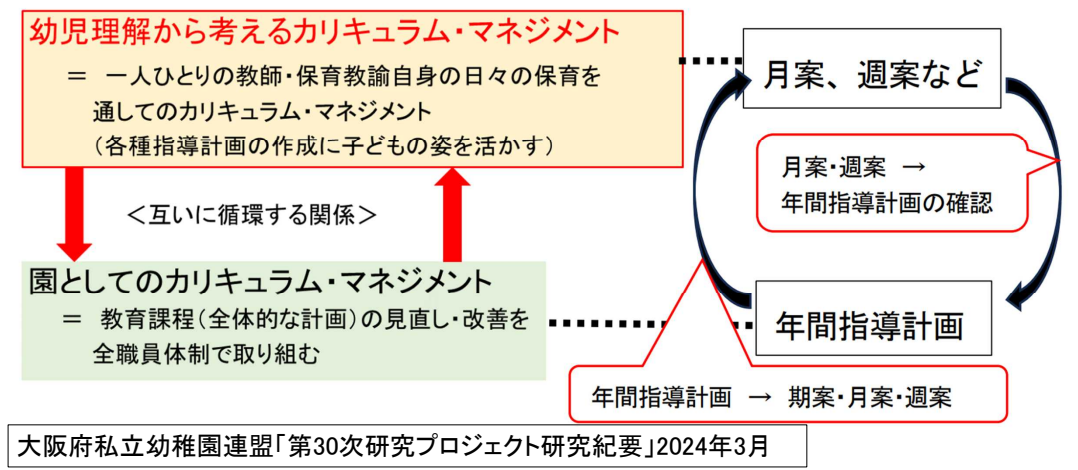
○ 幼児教育において育みたい資質・能力の実現に向けては、幼稚園等において、子供の姿や地域の実情等を踏まえつつ、どのような教育課程を編成し、**実施・評価し改善していくのか**という**カリキュラム・マネジメント**を確立することが求められる。「中央教育審議会答申」(平成28年12月)

○ 各幼稚園においては、6に示す全体的な計画にも留意しながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成すること、**教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと**、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「**カリキュラム・マネジメント**」という。)に努めるものとする。

『幼稚園教育要領』(平成29年) 第1章総則一第3教育課程の役割と編成等

はじめに③ カリキュラム・マネジメントの概略

「教育課程(全体的な計画)」ー「指導計画」ー「日々の保育」ー「幼児理解」のつながりと、見直し(評価と改善)



1. 「カリキュラムマネジメント」とは？ー認定こども園教育・保育要領より

各幼保連携型認定こども園においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画を作成すること、**その実施状況を評価して改善を図っていくこと**、また実施に必要な人的・物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画に基づき組織的かつ計画的に各幼保連携型認定こども園の**教育及び保育活動の質の向上を図っていくこと**(以下「**カリキュラム・マネジメント**」という。)に努めるものとする。

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年) 第1章総則一第2 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画等

「全体的な計画／教育課程」を作成し、実施して、**評価して、改善していくこと**

1. 「カリキュラムマネジメント」とは？－保育所保育指針より

(5) 評価を踏まえた計画の改善

ア 保育所は、評価の結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等の改善を図ること。

イ 保育の計画に基づく保育、**保育の内容の評価及びこれに基づく改善という一連の取組**により、保育の質の向上が図られるよう、全職員が共通理解をもって取り組むことに留意すること。

『保育所保育指針』（平成29年）第1章総則 3 保育の計画及び評価

「保育の計画」を作成し、実施して、**評価して、改善していくこと**

2. 「やってみたいが学びの芽！」文部科学省Youtube動画②



遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”

～「やってみたい」から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力）の育成～

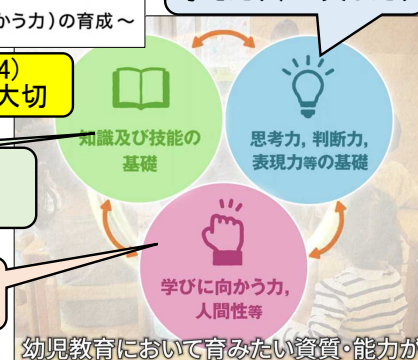
文部科学省の「資質・能力」についての公式動画（2024.4）
幼児期の教育は「学びに向かう力」を十分に育むことが大切

資質・能力の3つの柱
トキメキ＝やってみたい！
＝学びに向かう力
ヒラメキ
＝思考力、判断力、表現力等の基礎
気づき・発見
＝知識及び技能の基礎

気づき・発見＝気づいたり、
できるようになったりする

やってみたい！
＝トキメキ

ヒラメキ＝
考えたり、工夫したり



幼児教育において育みたい資質・能力が

知りたい！
生き物のこと
もっと知りたい！
疑問から気づきが生まれたり

作りたい！
どんなこと
考えたり、
工夫したり
している？
みんなで
大きな山を
作りたい！
問題を解決しようとする力や
どんなことを
気づいてい
る？

確かめたい！
色が変わる
不思議を
確かめたい！
自分なりに比べながら考えて

「学び」
知識及び技能の
基礎
思考力、判断力、
表現力等の基礎
学びに向かう力、
人間性等
やってみたい！
幼児教育において育みたい資質・能力が

「やってみたい！」（学びに向かう力）
＝遊びの原動力（トキメキ）

色が変わる
不思議を
確かめたい！
自分なりに比べながら考えて

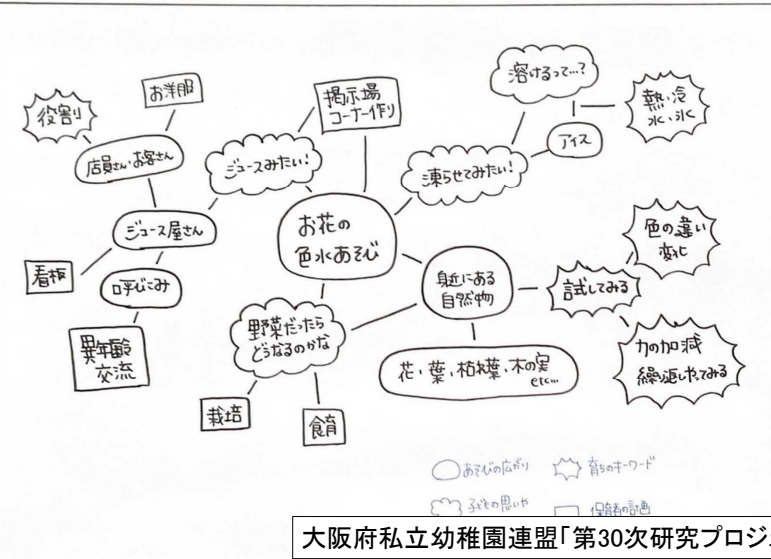
【ヒラメキ】自分なりのやり方で試したり、工夫したりしている（＝思考力）

【気づき・発見・できた！】遊びながら、色水の量を調整したり、比べたりして気づき・発見が生まれてくる（＝知識・技能）

色の不思議を確かめていく中で、楽しさや面白さを感じながら、次はこうしたいという「新たなやってみたい！」が生まれてくる（＝新たなトキメキ）

「やってみたい！」が続くと、子どもの中で色々考えて試したり、工夫したり、試行錯誤しながら、たくさんの気づき・発見（＝学び）がある。⇒「主体的な学び」

【考えてみよう】ウェブ(WEB)を書くことの意味



3. 「評価」という言葉の意味の確認

■ 保育における評価は、「アセスメント」。

「現状を捉え、改善や手立ての方向性を考えていくこと」が大事。

⇒ 次への手立て・方向性を考えるために、現状を把握する

(現状を一度立ち止まって振り返る)こと。

⇒ 「保育における評価」(自己評価)は、保育の過程や援助・言葉がけ・環境構成を振り返って、指導計画や保育実践の改善に活かしていくこと。

★「アセスメントとしての評価」は、反省ではない。

(参考) 2008年版『幼稚園教育要領』より「幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して指導の過程についての反省や評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図ること。」

⇒ 2017年『幼稚園教育要領』では、「反省」という言葉が削除されています。

4. 幼児理解を踏まえたカリキュラム・マネジメント

○ 日々の保育の中での「子どもの遊びや活動の理解」を踏まえて、指導計画の改善をしていく取り組み。

→ 子どもの遊びや活動の実際の様子から、当初の予定していた指導計画を変更したり、改善していく。

それに伴い保育環境の工夫や改善、保育の展開(進め方)も変化させていく。その中で、資質・能力や幼児期の終わりまで育ってほしい姿の育成も検討していく。

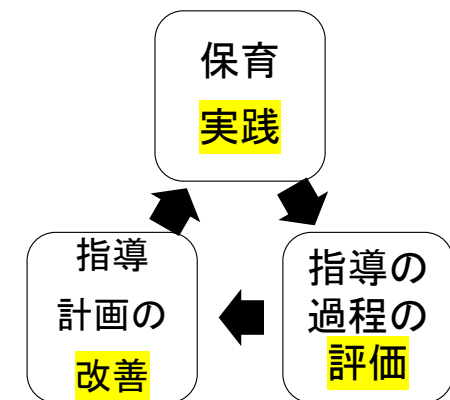
6. 「指導の過程の評価」とカリキュラムマネジメント

・幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して指導の過程についての評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図るものとする。

『幼稚園教育要領』より

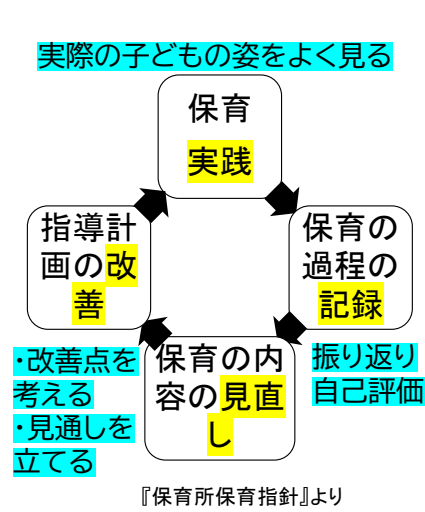
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』も同じ

★『幼稚園教育要領解説』には、記録や幼児理解についてもこの過程で必要不可欠な視点で解説されている。

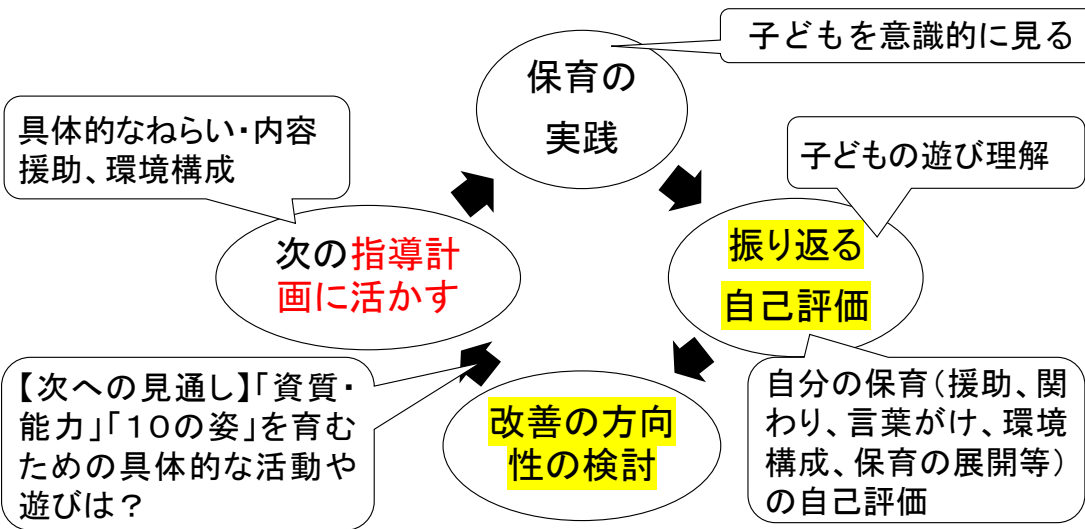


6. 「保育実践の評価」とカリキュラムマネジメント

- 保育所における保育は、**計画**とそれに基づく養護と教育が一体となった**保育の実践**を、保育の記録等を通じて**振り返り**、**評価した結果を次の計画の作成に生かす**という、**循環的な過程**を通して行われるものである。
- 保育士等は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化などに即して**保育の過程を記録**するとともに、これらを踏まえ、指導計画に基づく保育の内容の**見直し**を行い、**改善**を図ること。



7. 保育の振り返り・改善のサイクルを回すことが大切



【動画から考えよう】 文部科学省Youtube動画③

■「遊びは学び 学びは遊び ”やってみたいが学びの芽”
～多様な遊びから見える資質・能力を育むための園の工夫～」
の動画を見てみよう

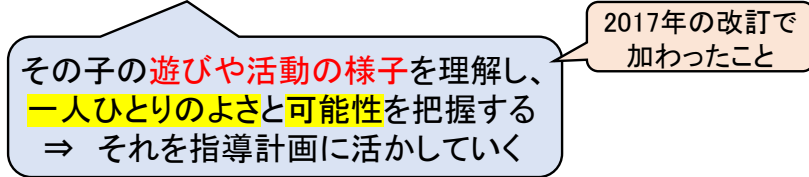


★ 保育者が何をしているかに着目して、動画を見てみましょう。

- (1) 動画の中では、保育中に保育者は何をしていましたか？
- (2) 動画の中では、保育環境の工夫や配慮として何をしていましたか？
- (3) 幼児理解を踏まえた評価と改善のサイクル(＝カリキュラム・マネジメント)を回していくためには、どんなことを保育者として大切にするとよいのでしょうか？

8. 子どもの理解の視点① 「一人ひとりのよさと可能性」

- 幼児一人一人の**発達**の理解に基づいた**評価**の実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
ア 指導の過程を振り返りながら**幼児の理解**を進め、**幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かす**ようにすること。その際、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての**評価によって捉えるものではない**ことに留意すること。



『幼稚園教育要領』より
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』も同じ

8. 子どもの理解の視点②「肯定的に見ることが出発点」

第1章 幼児理解に基づいた評価の意義

2. よりよい保育をつくり出すために

- (1) 幼児を肯定的に見る
- (2) 活動の意味を理解する
- (3) 発達する姿を捉える
- (4) 集団と個の関係を捉える
- (5) 保育を振り返り見直す

保育を振り返り、見通すためには、
肯定的なまなざしの中で、
「活動の意味」
「発達する姿」
「集団と個の関係」を捉える。

文部科学省『幼児理解に基づいた評価』(H30)より

10. 子ども理解は、「心(内面)」「育ち」「取り組む過程」の理解

(ア) 保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、**自らの保育実践を振り返り、自己評価する**ことを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。

(イ) 保育士等による自己評価に当たっては、子どもの活動内容やその結果だけでなく、**子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程などにも十分配慮する**よう留意すること。

その子の**遊びや活動の様子**を理解し、
子どもの**心の育ちや意欲、取り組む過程**
⇒ それを指導計画に活かしていく

遊びや活動は「トキメキ」「ヒラメキ・イメージ」「気づき・発見・できた!」が絡み合って進行していく。楽しい、面白いとトキメキを感じるからこそ、やり続けたい、もっとやりたい気持ちになる。その中で、「～したい」「もっとこうしたい」という意欲や思いが生まれてくる。

9. 幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方

文部科学省『幼児理解に基づいた評価』第2章より

■ よりよい指導につながる記録の生かし方

(1) 幼児の言葉や行為から**幼児の心情や経験を理解する**必要がある。

○人・もの・ことなどの環境への関わりはどうか。

○**何に興味・関心をもち、どのような遊びの課題をもっているか。**

○生活への取り組み方はどうか。など

トキメキ・やってみたい!
ヒラメキ・イメージ
気づき・発見・できた!

トキメキ

(2) 幼児の言動から、**遊びの何に面白さを感じているのか**を読み取る。

・そこでものや人とどのような関係を結んでいるのかを理解するとともに課題も見いだす。

・その課題を乗り越えるのにどのような経験が必要なのかを考える。

・その経験を満たす可能性のある環境(遊び・活動を含む)は何かを考え、教師の場に応じた役割を考える(仲間になって動く、環境を提案・提示する等)。

・結果として遊びや幼児一人一人の状態がどのように変化するのかを見る。

【考えてみよう】 次への手立てを考える

大豆生田啓友先生の捉えた「2歳児の水遊び」

○ 夢ナビTALK「保育の仕事は面白い」より

・ <https://www.youtube.com/watch?v=NDNufmpTmcs>



(1) **この動画の2歳児の姿は、どんなことを「やってみたい!(トキメキ)」があったのでしょうか。どんなことを考えたり、試したりしていたのでしょうか? そしてどんなことを気づき・発見があったのでしょうか?**

* **自園の子どもの姿ではありません。**

あくまでも動画の2歳児の水遊びの場面で考えて下さい。

(2) この遊びの様子から考えて、今後、どのような物的環境があるとよいのでしょうか? (少し先の見通しを考えてみましょう)

【考えてみよう】子どもの「心(内面)」「遊びの過程」の理解



■ Youtube動画「手から始まる物語1歳児」

あとりえらぼ遊育園大阪府摂津市、2021年にアップされた動画

- 1 動画を見て感じたこと、気づいたことはどんなことですか？
- 2 下記の視点で読み取ってみよう。

遊びの中でどんな**ヒラメキ**や**イメージ**が生まれたか？

自分なりのやり方で、どのように試したり、工夫したり、表現しているか？

この遊びを通して、新たにどんな**気づき・発見**があったか？
どんなことができるようになってきたか？

トキメキどんな楽しさ・面白さ？ こうしたいという子どもの思い・願いは？

「やってみよう！」(トキメキ)

=遊びの原動力:遊びに向かう力



あとりえらぼ遊育園 みらい組

【**気づき・発見、できた！**(知識及び技能の基礎)】
この遊びの中で気づいたことや、わかったことは何か？ どんなことができるようになってきたか？

【**ヒラメキ・イメージ**(思考力・判断力・表現力の基礎)】
遊びながらどんなヒラメキやイメージが生まれてきたか？ 自分なりのやり方で、どのように試したり、工夫したり、イメージしたことを表現しているか？

③ やってみて、何に気づいた？ できた？

② やってみる中で考えていることは？

① どんなことをやってみよう？



子どもの遊び理解を踏まえて、保育者はどのように援助したり、どのような物的環境を用意したり、どのような保育の展開を考えているのでしょうか。

【「やってみよう！」(トキメキ=学びに向かう力)】
遊びの中でどんなトキメキがあったのでしょうか？
どのようなことを「やりたいこと」と思っていたのでしょうか？
「やりたいこと」や「トキメキ」の変化はありましたか？

11. 子どもの遊び理解につながる「ドキュメンテーション」を作ろう

■ 言葉の意味

写真を効果的に用いた記録のこと。

具体的には、子どもの日々の姿を、文章や写真などで記録し、掲示することで、**保育のプロセス**(保育の展開過程、“遊び・活動の足あと”)を可視化して共有する取り組みのこと。

写真に「子どもの言葉」の吹き出しを付けて、保育中の子どもの姿や思いがわかるようにする。このときの様子や状況説明、意図などを書き加えてもよい。



トキメキが、わかるように書く

ヒラメキが、わかるように書く

気づき・発見がわかるように書く

「雨どい遊び」の活動プロセスをドキュメンテーションで追いかける

どのように活動が展開していったかという様子や状況がわかるように「→」を活用して、つながり(探究・継続の過程)がわかるように書く。



この場面で、どんな「ヒラメキ」や「気づき・発見・できた！」が生まれていたか、継続しながらトキメキ(子どもの思い)がどのように変化していったかを読み取れるように書く。10の姿を意味づける。



2歳児

てんとうむしぐみ

8月 27 日

転がった転がった！

一人の子ども

の様子・状況に

着目したドキュメンテーション

12日(月)さくら・もみじのいえ

さあ、やるぞ！

この子がどのようにしているかという様子や状況だけではなく、この場面での子どもの思いや考え、育ちが読み取れる。

ヒラメキ、気づき・発見・できた！が、わかるように書く

活動の様子や状況・展開に着目したドキュメンテーション

クレーパーンという玉が通る道を自分で組み合わせて遊ぶ玩具があります。少し道がずれただけでボールが落ちるので、どうやって道を繋げようか？どうやらボールが転がるか？と考えながら遊んでいます。

何度も挑戦して、成功した時一緒に喜び共感することで楽しい、物事を探求しやり遂げることに繋がっています。

普段は壁のぼり遊びに興味を示さない男の子が、今日は自分から進んで大型遊具に駆け寄り行きました。取っ手をしっかり握って、登る先を見上げます。掴む場所を変えたり、同じ取っ手を両手で掴んだりしてどうすれば登れるか繰り返し挑戦していました。「やるぞ！」の思いを大切にしていきたいと思います

12. 何のためにドキュメンテーションで保育の可視化をするのか？

- 記録としての意味（これが本来の意味）
 - 保育者にとっては保育の改善につながる振り返りと、次への見通しを立てることが目的
 - 保育実践の質の向上、カリキュラム・マネジメントにつながる
- 保護者や保育者同士の情報共有のツールとしての意味
 - 掲示することで、保護者にとって／保育者同士で、園での保育内容（活動内容）や子どもの育ちの過程を担当や他の保育者と共有することができる。

「子どもの遊びの理解」のために、ドキュメンテーションがある

13. 子どもの遊び理解の視点の整理

○ 子どもの遊び理解の視点(子どもの姿や思い、経験や育ちの読み取り)

視点	意味
① トキメキ、ヒラメキ・イメージ、気づき・発見・できた！（資質・能力）	どのように遊んでいるのかをミクロに見て、遊びの過程を見る（遊びの中の学びの過程）
② 5領域のねらい・内容(保育内容)	どのような経験をしているのか(経験内容)
③ 10の姿	何が育ってきているのかを読み取る(育ち)
④ 主体的・対話的で深い学び	次の遊びや活動の過程や方向性を見通す



- 子どもが自分でハンドルを握って主人公になる
- ・遊び込んでいるときは、どんどん走り続ける(トキメキが続く)
- ・好きなことを追究してどんどん好きになっていく＝「幸せ・ウェルビーイング」

【考えてみよう】 4つの視点で考える

■ YouTube: 【5歳児クラス】4月から6月までの保育 荒尾第一幼稚園(熊本県荒尾市、私立園)



① トキメキ、ヒラメキ・イメージ、気づき・発見・できた！	どのようなことを「やりたい」と思っていたのでしょうか？ どんなことにトキメキを感じていたかのでしょうか？ 「やりたいこと」や「トキメキ」はどのように変化しましたか？ 遊びながらどんなヒラメキが生まれてきましたか？ どんなことを試したり、工夫したりしていましたか？ この遊びの中でどんなことに気づいたり、わかったりしたのでしょうか？
② 5領域のねらい・内容	「5領域のねらい・内容」で考えてみると？
③ 10の姿	10の姿ではどのような育ちが見られましたか？
④ 主体的・対話的で深い学び	主体的な学びになっていましたか？ 対話的な学びになっていましたか？ 深い学びになっていましたか？

14. 子どもの姿を振り返りから、次への手立てへ — KPTの発想

Keepの視点	どんなことにトキメキを感じながら遊んでいたか？ どんなイメージやヒラメキをもって遊んでいたか？ どんなことに気付いたり、どんなことができるようになってきているか？
Problemの視点	今回の環境構成はどうだったか？ 援助や言葉がけはどうだったか？ 遊びの中で気になる子どもの姿は？

やりたい! (トキメキ)が続くように、
次への方向性・見通しを考える

Try

自分の保育のあり方の
自己評価

遊びの展開・人との関わり (遊びや活動の継続性) (Keepの延長線のTry)	このままどんなトキメキが続いてほしい？ 新たにどんなトキメキが生まれてほしい？ 新たにどんなイメージやヒラメキが生まれてほしい？
環境構成、保育者の援助 (Problemの改善のTry)	Problemを改善するために、どんな環境構成や援助を意識するとよい？
新たなTry	保育者の思い・願いを踏まえた新たな視点

まとめ

「子ども理解」は、「子どもの遊びや活動の理解」

- 子どもの遊びや活動の理解について
 - ・ 個人に焦点をあてて具体的に理解する(表情やしぐさなどミクロに捉える)
 - ・ 遊びや活動の中の子どもの内面(トキメキ、ヒラメキ・イメージなど)を読み取る

- ①子どもの遊びや活動の理解は、「行動＋内面の理解」
- ②子どもの内面(トキメキ)の理解が、「やってみたいが学びの芽」を意識した保育につながる

- 指導計画と記録の「振り返り」の内容の工夫
 - ・ 写真を入れたり、ドキュメンテーション・ポートフォリオを活用する
 - ・ 子ども理解を踏まえて「次への手立て」を具体的に考え、指導計画に反映。

これが「幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント」